



大河ドラマで燃える 八重のふるさと 会津に行こう!

こんにちは、あすまで。今月は福島県の会津若松にやってきました。ここは来年1月まで特別に開館している「ハンサムウーマン八重と会津博 大河ドラマ館」です。現在NHKで放映中の『八重の桜』で登場する主要人物の衣装や、ドラマセットなどを展示しています。会津口々のメイキング映像も見られます。(MAPのA)

今回の登場人物



業平 敏男
あずまの父親。食品会社で勤める。歴史とジャズを愛するサラリーマン。



業平 あすま
業平家の長女。母親が経営する英会話教室を手伝う。趣味は旅行。



業平 道子
あずまの母親。小学生向けの英会話教室を営む。趣味は園芸。



『JR会津若松駅』です。北千住から特急「スーパーシア」で鬼怒川温泉駅へ。そこから会津鉄道の「AIZUマウントエクスプレス」に乗り換えます。片道約4時間で到着。瓦屋根と白壁が印象的な駅舎です。開業は明治32年。

会津若松

(あいつわかまつ)

現在放送中のNHK大河ドラマ『八重の桜』の主人公・山本(新島)八重が生まれ育ったのは、会津若松。幕末から維新にかけた激動のドラマの舞台となった会津若松に、いま全国から熱い視線が注がれています。歴史のロマンあふれる城下町は、見どころいっぱい。東武電車と会津鉄道を乗り継げば、日帰り旅行だって可能。会津若松では観光スポットを結ぶ「まちなか周遊バス」も便利でお得です。この夏は会津若松へ行きましょう！



明治17年にできたというこの洋館は、「野口英世青春館」。1階が喫茶店になっています。野口少年が左手の手術を受けた會陽醫院跡で、彼が勉学に励んだ場所でもあります。野口が使った机や愛用品などが展示されていました。(MAPの①)



まちなか周遊バス「ハイカラさん」と「あかばね」に乗り放題の1日フリー乗車券を購入し、散策スタート。ここは「会津若松観光物産協会」。会津の名産やお菓子など、お土産選びにも便利。観光マップも入手できます。(MAPの②)



福島県立博物館の隣に作られた「大河ドラマ館」。ドラマに登場する、山本家にあった銃の実弾射撃場「角場」がリアルに再現されていました。このコーナーでは、スポンサー銃でのバーチャル射撃体験もできましたよ。(MAPの③)



難攻不落とうたわれた名城、鶴ヶ城です。戊辰戦争の籠城戦でも落ちず、その後取り壊されたのは明治7年のこと。昭和40年に再建され、平成23年春には赤瓦に飾られた天守閣も復活。内部は郷土博物館にもなっています。(MAPの④)

大河ドラマといえば、今年の放送に合わせて会津若松に「ハンサムウーマン八重と会津博 大河ドラマ館」がオープン。館内では撮影で使用した色艶やかな着物などが展示され、登場人物をパネルで紹介しています。また、出演俳優からのメッセージやメイキング映像なども見ることが出来ます。一番の人気はドラマセットの再現。来館者は映像技術によってドラマの中に入り込んだような体験ができるのです。気分はもうすっかり八重！

さて次は、北出丸大通りから鶴ヶ城に登城します。戊辰戦争で1カ月の激しい攻防に耐えた難攻不落の名城。最期の城主は松平容保公。そして、あの八重もスポンサー銃を持って籠城戦に加わっているのです。天守閣ではその大河ドラマの放送に合わせ、企画展「幕末特集〜会津人 戊辰戦争のまえとあと」を開催しています。

七日町通りの界隈は、昔から会津城下の中心街。現在「まちなかエリア」と呼ばれ、明治から昭和初期に建てられた蔵造りの古い商家や木造洋館などが現役で残り、懐かしい街並みを見せています。絵蠟燭や会津塗など当地ならではの伝統工芸の老舗も軒を並べ、楽しい道草ができます。これらの工芸品や郷土菓子などのお土産品を一堂に集めているのが、会津若松観光物産協会の直売所。会津観光の案内所でもあります。

七日町通りから鶴ヶ城 大河ドラマ館を巡る



会津藩家老西郷頼母の屋敷などを復元した「会津武家屋敷」です。約7000坪の敷地を歩けば、江戸時代にタイムスリップした気分になれますよ。会津の郷土料理が楽しめる御食事処「九曜亭」も人気です。(MAPのF)



ランチは父のリクエストで「ソースカツ丼」を。ここは「白孔雀食堂」。豚肉も米もキャバツも会津産です。70年も継ぎ足してきた伝統のソースには絶妙の甘みか。右が「名物カツ丼」で、左が女性限定の「あじろ花姫カツ丼」です。(MAPのE)



最後に訪れた「養蚕国神社」です。811年に勧請された古社で、養蚕守護の神として広く知られているそうです。現在の社殿は1819年に再建されたもの。境内にある樹齢約1000年以上という峰張桜も見事でしたよ。(MAPのH)

長い石段を上っていくと、「会津さざえ堂」に出ました。1796年に建立された高さ16.5m、六角三層のお堂です。皇朝二十四孝の絵額を見ながら廻ります。上り下りが別の通路になっているので、すれ違いうことがありません。(MAPのG)



念館と伝承史学館があります。飯盛山に建つ国指定重要文化財「さざえ堂」も必見。寛政年間に建立されたと伝わる仏堂で、堂内には上り下りする二重構造の螺旋階段があり、対向する人と出会うことなく堂内を巡るといって、世界的にも珍しいものです。まちなか周遊バスを乗り継ぎながら、観光スポットをぐるっと一巡り。会津若松駅へと戻る白虎通り沿いに鎮座するのは、養蚕国神社。養蚕守護の神として広く知られ、諸業繁栄、交通安全守護として信仰されています。紅葉の名所ですが、境内には推定樹齢千年以上の御神木「峰張桜」があり、記念撮影スポットになっています。

市内の東方——飯盛山と東山温泉を結ぶ「いにしえ夢街道」沿線にも、会津藩の歴史を物語るスポットが多く点在しています。大名の墓所として全国有数の規模を誇る会津藩主松平家墓所の近くには、会津武家屋敷。幕末の藩家老・西郷頼母の屋敷を中心に、陣屋や茶室、藩米精米所などの歴史的建築物が軒を連ねる屋外博物館です。とりわけ和様建築の粋を集めた豪華で壮大な家老屋敷には38の部屋があり、「お成りの間」では松平容保公を迎える西郷頼母の様子が蠟人形で再現されています。

そして標高314mの飯盛山。言わずと知れた白虎隊終焉の地です。戊辰戦争で飯盛山に敗走した19名の少年藩士たちは、そこから城が燃えていると思い込み、もはやこれまでと自害したのです。中腹には彼らの墓が並び、悲劇を後世に伝える記念館と伝承史学館があります。

戊辰戦争の悲劇——白虎隊が眠る飯盛山



会津若松データファイル

〈ゆったり会津 東武フリーパス〉…例) 北千住～会津若松(往復) 6710円。北千住～鬼怒川温泉の特急料金(片道1400円)を加え、往復9510円 *下今市～東武日光・喜多方乗り降り自由 *詳細はお近くの東武トラベルへ
〈ハンサムウーマン八重と会津博 大河ドラマ館〉…●交通=まちなか周遊バス「鶴ヶ城三の丸口」徒歩3分 ●開館時期=平成26年1月14日(火)まで ●開館時間=8:30～17:00(入場は16:30まで) *無休 ●入館料=大人(高校生以上)500円/小人(小中学生)200円 *未就学児童は無料 ☎0242-23-8228
〈会津若松観光物産協会〉…●交通=会津若松駅徒歩15分 ●開館時間=8:30～17:

00 ●定休日=年末年始 ☎0242-24-3000
〈野口英世青春館・會津壺番館〉…●交通=まちなか周遊バス「野口英世青春館前」すぐ ●開館(営業)時間=8:00～20:00 ●定休日=1月1日 ●入館料=100円 *1階が喫茶店、2階が野口英世青春館 ☎0242-27-3750
〈史跡 若松城跡〉…●交通=まちなか周遊バス「鶴ヶ城入口」徒歩5分 ●開館時間=8:30～17:00(入場は16:30まで) *年中無休 ●入館料=大人500円/小中学生150円(鶴ヶ城天守閣・茶室「隣間」共通券) *天守閣のみは大人400円、茶室「隣間」のみは大人200円、小中学生無料 ☎0242-27-4005(会津若松市観光公社)

〈会津武家屋敷〉…●交通=まちなか周遊バス「会津武家屋敷前」すぐ ●開館時間=8:30～17:00(12月～3月は9:00～16:30) *年中無休 ●入館料=大人850円/中高生550円/小学生450円 ☎0242-28-2525
〈ざざ堂〉…●交通=まちなか周遊バス「飯盛山下」徒歩5分 ●開館時間=9:00～16:00 *年中無休 ●入館料=大人400円/大高生300円/小中学生200円 ☎0242-22-3163
〈白孔雀食堂〉…●交通=まちなか周遊バス「徒の町」徒歩3分 ●営業時間=11:00～15:30(売り切れ次第閉店) ●定休日=月曜・金曜 *名物カツ丼1150円、あいびつ花姫カツ丼950円 ☎0242-27-2754